

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 至愛協会
施設名	あすのき保育園
報告者（役職）	平川 純子（園長）
住所・連絡先	東京都多摩市諏訪 2-2-B-001
	☎ 042-400-0360
	E-mail asunokihoikuen@cap.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

乳幼児の運動発達を助けるためにどのような環境を創りだすか

○主な助成備品

両面格子トンネル 木製室内遊具 スペースセット付

1. 保育計画策定の目的

多摩ニュータウンエリアにある「あすのき保育園」は0歳から2歳までのお子さんを預かる乳児保育園として2014年4月に開園しました。団地の一角にあり、園庭もありますが、十分な広さではありません。狭い園庭を補えるように、園舎内に多目的に使えるスペースをつくり、子どもたちの運動発達を日常的に助けていきたいと考えました。しかしながら、空間は確保したものの、当初は遊具も少なく、広さをもてあますばかりでした。このスペースを使って0歳児のハイハイ、1歳児の歩行、2歳児の多様な運動をどのように経験させていくかということが、開園1年目の大きな課題となっていました。

2. 具体的な実施内容

- ① ハイハイを十分経験するために、木製トンネルを使用して・・・。

「両面格子トンネル」は、0歳児がハイハイを始めるころから使用しました。ハイハイは四肢で体を支える運動なので、体幹を鍛え、平衡感覚を養ってくれます。またトンネルをくぐるという行為は空間認知力を育てるので、歩行が安定した後も積極的に活用しました。





② 木製遊具を組み合わせで多様な運動あそびを経験する

歩行が十分安定してくると、さらに行動範囲が広がり、段差や斜面の上り下りや橋わたりなど、ひとつずつできることが増えていきます。何もない空間だと、子どもは走り回りがちですが、遊具を意図的に配置することで、動きが整理されてきます。大きな固定遊具を置くと、空間の目印になるので、衝突などの危険が少なくなり、より安全に遊ぶことができるようになりました。こどもたちが「これたのしそう、やってみよう」と、思えるよう木製遊具をセッティングし、あとはできるだけ自由に子どもたちが遊べるようにしました。子どもの月齢、人数、能力に合わせて遊具の組み合わせを工夫しながら運動遊びに誘った結果、どの子も満足して遊ぶ様子がみられるようになりました。



③ 動の空間と静の空間をつくる

ホールの一角をパーテーションで仕切って絵本コーナーを作りました。木製遊具のある空間が「動の空間」だとすれば、絵本のある空間は「静の空間」です。たっぷり身体を動かしたあとは、絵本コーナーで水分補給のお茶を飲んだり、絵本を読み聞かせてもらったりしています。絵本コーナーでのひとときは子どもたちのお楽しみの時間になっていて、ひと息ついてから保育室に戻るの、落ち着いて次の活動へと向かえています。

他にも、地域の親子を対象に、離乳食の試食会やベビーマッサージなど、子育て支援のスペースとしても活用しています。



3. その成果と評価

乳児期の成長発達をふまえて保育計画をたて、運動する機会を十分に提供しながら望ましいからだづくりをめざしました。保育園では2歳を過ぎたころから散歩に出かける機会が多くなり、体力がついてくると散歩の距離ものびていきます。段差や階段、起伏のある雑木林など、変化に富んだ地形もたくさん経験するようになります。室内で運動する機会を積極的に取り入れた結果、年間を通してころんだりぶついたりする怪我が少なくなりました。園庭や散歩など戸外で安全に活動できるようになったのも、日頃から天候に左右されずに室内でも体を動かして遊ぶ機会がたくさんあったからではないかと思っています。

4. 今後の課題と展望

この企画に応募することによって、子どもにとってどんな環境が望ましいかを職員間で話し合うことができました。今回の助成で、乳児にふさわしい運動遊具を購入することができ、ハイハイはもちろん、ヨチヨチ歩きの素足でも安全に遊べるようになりました。天候が悪く、戸外で遊べないときもホールにこれらの遊具をセッティングすることによって、のびのびと体を動かすことができ、一日の保育の中で静と動のバランスが程よくとれるようになりました。

安全性はもちろん、遊具のサイズや扱いやすさもわたしたちにとっては大事な検討事項でした。職員みんなで考えたオリジナル遊具はとても使いやすく、年間を通して保育の中で活躍しています。保育園には毎年新たに子どもたちが入園してきますが、一人ひとりが心身ともに健全に育つよう、環境を整えることがたいせつだと実感しています。これからも子どもの成長発達を保障できる保育を実践していきたいと思います。

以上